令和７年（2025 年）10 月 16 日（木）

愛知県東海市

【市の概要】
・面積： 43.43 km²
・人口：113,302 人(令和７年 10 月１日現在)
・世帯数：52,886 世帯(令和７年 10 月１日現在)
・令和７年度一般会計予算:537 億円

市章

東海市は市域の北部の上野町と、南部の横須賀町が合併し、昭和 44 年(1969 年)4 月１日に誕生した。市名は公募によって決定され、「東海地方を代表するスケールの大きい名である」「全国的によく知られ知名度が高い」「中部圏の中心にふさわしい」などの理由で選ばれた。

中京工業地帯の名古屋南部臨海工業地帯の一角に位置し、愛知製鉄株式会社、日本製鉄株式会社、大同特殊鋼株式会社などの主要鉄鋼企業が集積する中部圏最大の鉄鋼基地を擁し、「鉄鋼のまち」として知られている。一方で農業も盛んで、洋ランの生産は県内有数、フキは全国有数の産地である。

名古屋港や中部国際空港へのアクセスにも優れ、伊勢湾岸自動車道や名古屋高速と接続するなど、陸・海・空の中部圏広域交通の要衛となっており、立地特性を活かした都市基盤の整備やにぎわい創出、子育て支援、健康づくりの充実など多方面にわたるまちづくりが進められている。

市内には江戸時代の儒学者・細井平洲ゆかりの史跡が残り、教育・文化のまちとしての一面も併せ持つ。

【視察内容：ひきこもり支援推進事業について】

◯目的

　現在のひきこもり者数は、最新の調査結果から全国で約 146 万人と推計されており、特に「長期化」と「高齢化」の深刻化が、今後の支援における大きな課題として予測されている。区では、ひきこもり状態にある方が社会的孤立や経済的困窮に陥るらないよう、社会とのつながりを回復・維持するための支援や、家族の孤立を防ぐことを目的として、ひきこもり支援事業の一環である「ゆるりとすぎなみ」を令和７年８月に開始した。全国でもいち早くひきこもり支援事業を開始させ、先進的な取り組みを継続している東海市の先行事例を学ぶことを目的とした。

◯内容：ひきこもり支援センターほっとプラザの説明と見学

１、設立の経緯

　　平成 18 年：市社会福祉協議会に「ひきこもり相談窓口」を開設

　　平成 19 年：「ひきこもり支援検討委員会」を設置

　　平成 20 年：「東海市ひきこもり施策基本指針」の策定

　　平成 21 年：「ほっとプラザ」開設

※開設当初は市社会福祉協議会が事業主体であったが、令和３年からは実績のある団体と協定を締結し、「東海市ひきこもり支援事業コンソーシアム」へ事業委託した。委託後は利用者が増加したことから、ニーズを的確に把握し、支援を行うための専門性と、安定的な支援体制の確立と継続を目的として、令和７年度よりＮＰＯ法人オレンジの会へ事業を委託している。（専門性の高い人材確保を目的とした５年間の契約）

２、ほっとプラザについて

開設日：毎週火曜日～土曜日　09:30-18:00

　　(火・木曜日は学習・生活支援の利用者のみ 20:00 まで)

職員体制：ＮＰＯ法人オレンジの会職員５人

　　学生アルバイト４人

３、事業内容

① 相談支援：本人、家族、アウトリーチ、ＬＩＮＥ相談（毎週水曜日 17:00-22:00）

② 居場所支援：フリースペース、女子会、運動プログラム、コミュニケーションゲーム、利用者が考える自主イベント

③ 家族支援：家族会（講師を招いた勉強会）、家族交流会(年１～２回のイベント)

④ 就労準備支援：内職、ボランティア活動（子ども食堂、デイサービスなど）

⑤ 学習・生活支援：火・木 18:00-20:00/土 10:00-12:00

⑥ 広報・啓発事業：ＨＰ、講演会・研修会の開催、民生委員・児童委員への勉強会、中学３年生へチラシを配布し周知

４、予算額の推移

	予算額	特定財源額
平成３０年度	24,976 千円	なし
令和元年度	24,430 千円	1500 千円
令和２年度	25,541 千円	5,500 千円
令和３年度	25,852 千円	5,500 千円
令和４年度	30,803 千円	16,132 千円
令和５年度	33,139 千円	18,104 千円
令和６年度	35,939 千円	20,164 千円
令和７年度	37,880 千円	21,754 千円

５、ほっとプラザの支援の特徴

これまでのひきこもり支援では、「見守り」を中心とし、本人のタイミングを待つことが最適とされてきた。しかし、現実にはその「タイミング」はなかなか訪れず、現状が心地良いまま、自立に結びつかないという課題があった。東海市では、このような従来の支援手法を見直し、専門家との協議を重ねながら、社会とのつながりを意識的に築く「課題解決型支援」を実践している。支援体制も確立されたことで、ひきこもり支援が着実に進んでいると評価され、利用者数も年々増加している。解決への第一歩として、本人が社会とつながりを持つこと、すなわち「ほっとプラザが本人とつながること」を重視している。また、家族の協力も重要であることから、職員による直接支援だけでなく、家族への寄り添いや協力体制の構築にも力を入れており、本人支援と家族支援の両輪で取り組みが進められている。

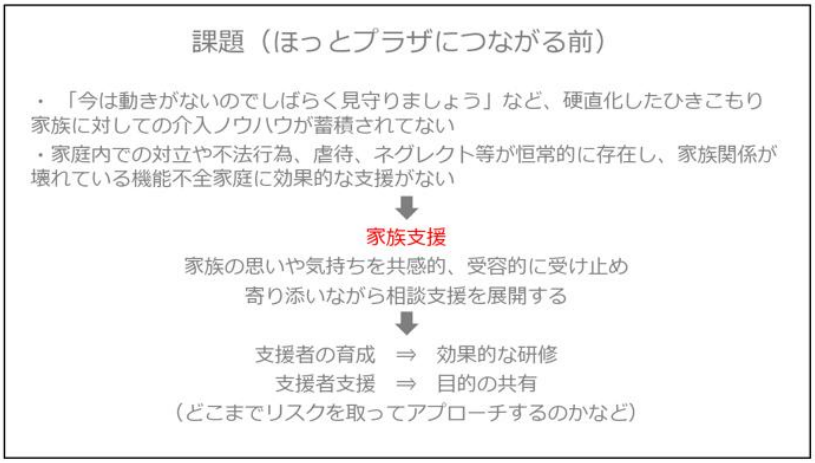
６、施設内での工夫

作業場スペースと居場所スペースはそれぞれ分けて配置されており、利用者が目的や気分に応じて選択できるよう工夫されている。居場所スペースにはゲームやボードゲームなど、多様なアイテムが用意されており、利用者が自由に過ごせる環境が整えられている。

また、作業スケジュールやイベント情報など、利用者が知りたい内容はホワイトボードに記載して共有し、誰でも一目で確認できるよう配慮されている。さらに休憩室も完備されており、その日の体調や気分に合わせて利用できるよう工夫されている。

加えて、施設内での内職作業にとどまらず、農作業など屋外で他者と一緒に取り組む活動の機会も提供されており、社会とのつながりを自然に築ける環境づくりが意識されている。

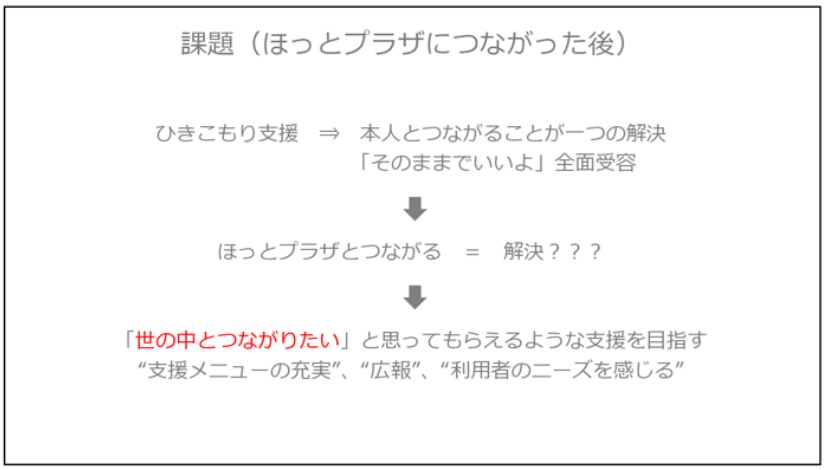
７、課題



〇家族支援の取組（ほっとプラザにつながる前の課題と対応）

ほっとプラザにつながる前の硬直化したひきこもり家族への介入ノウハウが乏しく、家庭内での対立や虐待、ネグレクトなど機能不全家庭への効果的な支援が不足していた。このため、家族の思いや気持ちを共感的・受容的に受け止め、寄り添いながら相談支援を行う体制を整備した。

また、支援者の育成に向けた研修や、支援目的・リスク対応方針の共有など、支援者支援にも取り組んでいる。



〇ひきこもり支援の課題と方向性（ほっとプラザにつながった後）

ひきこもり支援は、「本人とつながること」が目的化しやすく、支援がそこで止まってしまう傾向がある。そこで、「ほっとプラザとつながる＝解決」ではなく、本人が「世の中とつながりたい」と思えるようになる支援を重視する。そのために、支援メニューの充実、広報の強化、利用者ニーズの把握を進め、より主体的な社会参加につながる支援を目指す。

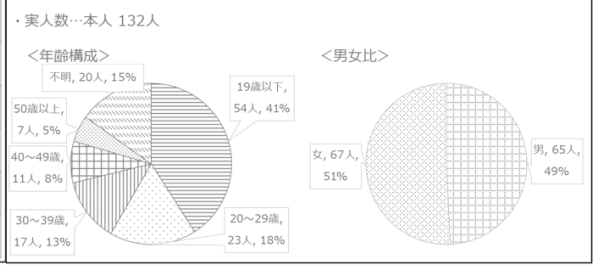
８、実績と利用者の傾向

実績

	来所 実人数	来所 延べ人数	一日平均 利用者数	備考
R 2	54人	732人	3.01人	
R 3	89人	1,358人	5.61人	R3.4～相談支援事業 R3.6～就労準備支援事業
R 4	88人	2,436人	10.07人	R4～学習・生活支援
R 5	108人	2,738人	11.41人	R5.8～LINE相談
R 6	132人	3,503人	14.54人	

4倍以上

利用者の傾向（令和６年度）



過去５年間で１日の平均利用者数を比較すると、令和６年度は令和２年度の４倍以上に増加している。

利用者の傾向としては、男女比はほぼ同数で、年齢構成は 19 歳以下が 41%、20 代が 18%と、若年層が半数以上を占めている。

【所感】

今回の視察を通じて、東海市のひきこもり支援の歴史と先進的な取り組みについて深く学ぶことができ、大変有意義であった。

東海市の支援は、約 20 年前に他自治体に先駆けて相談窓口を設置したことから始まり、国の補助金がない時期から市の予算で先進的に取り組みを進め、現在の支援拡充に至っている。きっかけは、社会福祉協議会に出向していた区の職員の気づきと行動力にあり、もともと福祉に力を入れている東海市だからこそ、早期に予算化が実現したと理解した。

特に、見守る支援（波風を立てない）から課題解決型支援（波風を適度に上手く立てる）への転換は、支援の質を高める上で極めて重要な視点であると感じた。さらに、波風を上手く立てるためには繊細な工夫が求められ、本人支援のみならず、家族の支援・支援者の育成の重要性も改めて認識した。

区では事業が始まったばかりであるが、後発の利を活かし、より良い形で、よりスピーディーに支援体制を整えていくことが重要であると考える。